



新年おめでとうございます。
新羽地区社会福祉協議会の初めての正月です。本年もよろしくお願い申し上げます。
港北区長さんはじめ、多数の関係者から称賛されました『磯子老人ホーム』慰問の第一回研修旅行は、会員皆様の熱意の結晶のおかげで好成績をおさめました。厚く

新羽地区社会福祉協議会
会長 小山 勇吉

ごあいさつ

新地 羽区 姉の和

題字 長澤 茂

第2号

発行 横浜市港北区
新羽地区社会福祉協議会
会長 小山 勇吉
編集人 米山 進
港北区新羽町1525
☎ (541) 0869

磯子ホームを訪ねて

小山 米子

昨年十月二十三日、新羽地区社協では、磯子・特別養護老人ホームの慰問を行い、相談役・長澤茂氏揮毫の、色紙「慈愛」と、社協会長より金一封を贈呈した。

現在、当ホームには、六十三歳以上の寝たきり、或いは、それに近い老人百名が入所しており、三十六名の寮母の手厚い介護を受けている。比較的元気な老人達は、俳句、陶芸、絵画等を楽しんでおり、小規模ながら劇場と称するビデオルームまであった。浴室、トイレ、各居室とも明るく、清潔で、

至る所に細やかな気配りが感じられ、気持ちがやわらいだ。「褥瘡が一人も見られないんです」という所長の話にも、なる程と頷ける。ただこういう施設が、極めて少ないことが残念である。家庭での介護が難しい高齢者が益々増えると思われる。希望者全員が入居できる日が来ることを念じつつ、今、私達にできることを一つひとつやらなくてはとの思いを胸に、一同帰路についた。老人問題は決して他人事ではなく、確実に自分達の身に迫ってくるものだから……。



(長澤 茂)

社協とは!!

民生・児童委員の仕事は!!

社会福祉協議会の略語です。地域の住民が主体となり、行政の手の届かない地域の福祉の向上をはかることを目的として設立された協議体で、民間団体です。

市社協をはじめ、各区には区社協があり、そして地区社協があります。事業、行事の実施は地域住民すべての人の協力で行われます。が、主として民生委員・保護司・町内会・障害者団体・ボランティア団体等の代表が役員となり運営に当たっています。

◎ここで民生委員・児童委員とは、新羽地区民生委員協議会には、十五名の民生・児童委員が厚生大臣より委嘱されて居ります。

子供達もお年寄りも、障害をもった方たちも、誰もが地域の中で仲良く幸せに暮らしていくことが、皆んなの願いであります。

民生委員は、地域の福祉を高めるために、悩みをお持ちの方、困りごとのある方、援助を必要とする方の相談相手となり、問題解決の援助をします。また、児童委員として、子供達は、未来の活力ある社会の担い手として、良い環境の中で、健全に育成を願いつつ、児童に関する様々な事柄に、皆さんと一緒に取り組んでいます。

「行政と地域とのパイプ役」安心して生活が出来るように、心配ごとや困りごとの相談に。秘密は固く守ります。

新羽地区社会福祉協議会

年 新 賀 謹																																		
常務理事															副相 會																			
理事															會談役 長																			
會計															監事																			
廣報委員															副委員長																			
委員															委員																			
小	長	高	金	中	野	中	中	土	峯	中	米	中	米	中	秋	金	岩	角	永	米	中	西	小	米	松	小	大	高	忍	西	甲	北	上	
山	澤	尾	子	福	村	山	山	岐	木	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	
勇	吉	茂	毅	太郎	宏	臣	隆	賢	進	良	雄	勇	雄	子	治	男	男	孝	喜	信	喜	作	進	見	子	清	米	正	昌	松	孝	順	達	章

赤い羽根愛の一本子の胸に
手縫つく施設を訪るボランティア
金堂 豊子

消防活動

消防団代表 大森武保

広々とした田園風景と草葎屋根の家。今はなつかしくさえ感じます。その頃の生活はすべてマッチ一本から紙に、さらに、そして木片にと、これが唯一の燃料だったと思います。今思えばこれらのものを家のまわりに囲い蓄えた生活様式でしたので戸数の割には火事という言葉を耳にする回数が多かったように思います。ところがこの二十年程の間に急激におし寄せて来た都市化の波、複雑過ぎると思える近代的な昨今の生活ぶりをみて、一度火を出してしまったり周囲に及ぼす影響の大きさは計りしれないものがあると思います。火元には気をつけてみんなが安心して暮らせる町づくりに協力したいものです。

活動の一つを紹介します。消防団主催でポンプ操法という競技大会が毎年行われています。地元消防団に課せられた任務ともいうべきものの中からいかに早く、そして正確に放水するかという技を競い合う場です。地区ごとに練習に練習を重ねその大会に臨んでいる姿をどうぞ機会がありましたらごらんになって頂きたいと思えます。この競技大会に参加し自分の持っている力を充分発揮し、別の角度から自分をみるのもいかなるものでしょうか。皆様のご協力を頂き、よりよい町づくりの一助になれば本当に幸いです。

若い諸君の入団を歓迎します。

賛助会員の皆様へお礼

港北区社会福祉協議会では、賛助会員加入のおすそめをお願い致しております。地区社協を中心に皆様の温かいご理解・ご協力により、多くの方の登録をいただき、本年度分新たに会員となられた方々、ご芳名をご報告させていただきます。(順不同・敬称略)

◆中之久保町内会

岸 二郎・五十嵐繁夫・小山武三郎・梅津辰雄・東神商事横濱工場・富士川弘・富士川實・古宮照雄・小山健治・片山齒科医院・御名越製作所・櫛桂精機製作所・渡辺安延・高橋虎次・東海林紀子・南本間製作所・比嘉幸・安藤歌子・吉原鋳金工業所

◆大竹町内会

中山 正・中山正明・中山 元宇佐美直人・中山 勉・中山コト・日東工業・大成バーツ・秋元勝治郎・茂呂和男・平等勝尊・和田国紘・伊奈貞夫・伊奈寿男・斎藤英雄・中山省三・中山新三郎・櫛エクシング・藤塚外科胃腸科・小野雅江子・飯島里子・茂呂 宏・忍田松三・大内田製作所

◆中央町内会

櫛ニューウイング・ゴルフクラブノエビア京浜北版社・櫛魚のぶ櫛石原興業

◆新羽町自治会

藤井静枝

◆新羽町内会

南品川製作所・岡田嘉代子・伊

藤登美子・折笠和彦・川名正夫
万寿留夫・花田利三・梶田晴登
南藤田プレス・大洋特殊溶接機

◆北新羽町内会

池上喜子男・南西工務店・峯木米雄・金子信太郎・西山政一

◆新栄町

角田正治

家防

家庭防災代表 秋元敏子

「自らの家庭は自らの手で守る」の合言葉で、家庭防災員が誕生して今年で二十二年目になりました。最初の二年間は研修期間で、色々技術を学んで頂き、十年間は実践家防員として活動して頂きます。初期消火の仕方、三角巾の使い方、たみ方等、簡単な事でも訓練会があった時には参加して、少しでも技術を身につけてほしいです。そのパイ役として、各町会毎に一名づつ、七名の連絡員がおります。数年前までは、皆様の協力がないと出来なかった運動会、訓練会等もなく、連絡員が参加すれば良い行事が多くなりました。

毎年増員される、新家防員の推薦区、市の出初式、町内会の行事など、連絡員は年間を通して忙しく活動を続けております。が、家防員の一番の仕事は、「家庭防災員の家庭から火を出さない」事です。目に見えない「小さくても大きな力」で、これからも皆様と協力して、地域の防災に役立って行きたいと思えます。



めくもり 社会福祉に貢献する 企業集団 1%クラブについて

最近耳にした1%クラブについて述べさせて戴きます。

1%クラブとは、企業の場合は経常利益の1%、個人の場合は可処分所得の1%を社会福祉、芸術文化活動に寄付し社会に貢献することを目的とした集団です。

平成二年十月に経団連の中に発足されたその年の末迄に二百社以上の企業が賛同し、約八百億円が集まり社会貢献のために寄付されたそうです。

1%クラブがどうして誕生したのかと申しますと、日本の企業が世界中に進出し、駐在員は日常生活の中で、寄付やボランティア活動が、温かみのある健全な社会作りに重要であるということを肌で知り、この人達が学んだ良き文化風習を日本にも移植しようと努力した結果です。

国や自治体の社会福祉行政も大事ですが、人とひととのふれあいを大切にするためにもボランティア活動は重要です。企業がこの活動を企業市民として地元へ献金援助することにより発展し、分かち合う文化が日本中に広まり根付くことを期待します。

日本に上場企業だけでも二千五百社以上あり、賛同企業がふえ、1%クラブが力強い存在になりますよう願っています。

(松村清見)

福祉講座

『戦国時代の、新羽とその周辺の歴史』
講師 法政大学教授 芥川龍男先生
日時 平成四年二月十四日(金)
午後一時三十分より三時三十分
会場 新羽中央会館
多数お誘い合わせご参加下さい。

〔新羽地区社協事業概要〕

(三年十二月・四年三月)

◆年末たすけあい運動(十二月)

皆様の善意を地域在宅、五十四世帯、八十一人に贈り、喜んでもらいました。

◆会報発行 (一月)

「ふくしのわ」第二号。

◆在宅福祉活動 (二月)

見舞品をお届けし。激励・援助。

◆福祉講座の開設 (二月)

地域福祉の理解と推進を図る為に講座を開きます。

◆賛助会員の募集 (随時)

きめ細かな福祉活動を目指し、皆様の加入をお願いいたします。

編集後記

明けてまして

おめでとうございます。

新羽社協が発足して早や一年。「ふくしのわ」第2号をお届けします。

昨年の施設慰問には四十五名が参加し、楽しい研修となりました。各団体その他地域代表の皆様よりの寄稿ありがとうございました。本年も会員相互の関係を密にし、益々社協が発展して行くことを祈ります。

(進)